

平成30年度 学校経営計画

1 学校教育目標

一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助・指導を行う。

校訓（生徒への願い）

- 発見（新たな自分の発見）
- 挑戦（新たな自分への挑戦）
- 創造（新たな自分の創造）

2 学校の特徴

- (1) 多様な学習歴を持つ生徒のニーズに応え、いろいろな場面において学習の機会を求めることができるよう教育課程を編成している。
- (2) 望ましい人間関係を築くため、生徒が主体となる行事の運営を工夫実践し、部活動の振興を図っている。
- (3) 幅広く適正な職業観に基づく的確な進路選択を可能とするために、生き方指導としてのキャリアガイダンスやキャリアカウンセリングを実施し、各年次において企業等の協力を得て、インターンシップや進路特別講座などの進路学習を実施している。
- (4) 支援が必要な生徒に対して、今年度配置された通級指導員やスクールソーシャルワーカーをはじめ、スクールカウンセラー、高等学校巡回指導員及び外部機関とも連携し、校内研修等を通じて共通理解を図り、学校全体で支援を行っている。
- (5) 生涯学習校として、地域の生涯学習の拠点となるように教育課程を工夫し、社会人と高校生がともに学ぶ共学講座を開設している。

3 学校の現状と課題

本校の生徒は概して素直であるが、学力や学習意欲、進路意識、生活習慣、人間関係能力等の面においては、個々の実態は多様である。中には、学校生活への適応力が不十分な生徒も見受けられる。そこで、すべての生徒に将来に向けて自立していく力を身につけさせるため、基礎学力、進路意識、健康な心身、そして、人と共生する力（コミュニケーション力）等の育成を図りたい。

特に進路については、生徒や保護者への的確な情報提供を行い、より効果的なキャリア教育のあり方について探求し、地域の企業等との連携による「インターンシップ」等の行事を通じて、望ましい勤労観・職業観の育成を図りたい。また、生涯学習校として、社会人とともに学ぶ学習活動（共学講座）や地域における諸活動への参加による教育的効果を十分生かす工夫も必要である。

支援が必要な生徒に対しては、本校の教育相談支援システムにより対応を行うとともに外部機関とも連携し、生徒一人一人の教育ニーズを把握しながら進学や就職、生活や学習上の改善・克服するための指導や支援が必要であり、全職員が連携・協力して、生徒の実態の的確な把握と教育環境の改善や指導法の充実・改善に継続的に取り組んでいくことが求められる。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方針及び計画	
1	学習活動	目 標	・ 各教科・科目において、生徒一人一人が課題の解決に意欲的、主体的に取り組む態度を育成する。
	重点1	計 画	① 基礎学力の向上 と学習意欲を向上させるため、互見授業や授業研究を推進し、わかりやすい授業（授業のユニバーサルデザイン化）を推進する。 ② 生徒の学習意欲や授業への満足度を把握し、学習指導法の改善に活かす。 ③ 各学科、各教科間の連携を図りながら、生徒一人一人の能力や進路に応じた指導を目指す。
2	学校生活	目 標	・ 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会的な規範やマナーを遵守する態度の育成、安全意識の高揚に努める。 ・ 心身両面にわたって、主体的に健康の保持増進に努めようとする能力・態度を育成する。
	重点2 重点2	計 画	① 日常生活における基本的な生活習慣の向上や社会生活のきまりについて主体的に考えさせるよう努める。 ② 安全教育や車体検査、街頭交通安全指導を実施することにより、通学時の 安全意識の高揚 を図るとともに、自転車等の利用時のマナー向上を進める。 ③ 保健委員会の活動を通して、 基本的な生活リズムを整えることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。 ④ 通級指導員を活用するとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、高等学校巡回指導員との連携を深め、教育相談の充実を図る。 ⑤ 面接週間を設定するなど、ゆとりある面接指導ができるよう配慮し、生徒理解に努める。
3	進路支援	目 標	・ 将来の自己実現に向かって、意欲的に学校生活を送っていこうとする態度を育成する。 ・ 人間としての在り方、生き方を考えさせ、主体的に進路を選択できるよう指導する。
	重点3	計 画	① 生徒一人一人の進路目標実現に必要な能力の育成 を図るため、「進路ノート」を活用するとともに、多面的できめ細やかな支援を行う。 ② 職業研究、インターンシップ、進路特別講座等により職業観の育成を図る。 ③ 授業を通して、人間としての在り方、生き方について自分で考えを深めることができるよう支援する。 ④ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員と連携し、指導を行う。

4	特別活動 重点4 重点4	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を培う。 ・ 読書に親しませ、豊かな人間性と情操を養わせる。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、内容や運営方法を工夫し、教育的効果が十分に上がるよう努める。 ② 生徒会活動や学校行事への積極的な参加を促し、生徒の自主的な企画・運営をさせ、生徒一人一人に達成感を味わわせる。 ③ 部活動では、生徒の積極的な加入と自主的な活動を促し、部活動の充実を図る。 ④ 生徒の購入希望図書や電子書籍、校外図書館等の利用状況の把握に努め、本校図書館の学習環境や機能を充実させ、生徒主体の委員会活動との連携により、読書習慣の定着を進める。
5	総合福祉科学習活動及び保護者・地域との連携 重点5	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合福祉科では、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させる。 ・ P T A活動に対する保護者の理解を高め、地域との連携・交流を推進する。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との福祉交流活動を通してのコミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門技術者による講座を通して社会福祉への理解を深めさせる。また、将来の進路目標や自らの在り方・生き方について考えさせる。 ② 社会福祉に係る資格取得の指導を充実させ、進路実現に役立てる。 ③ 進路目標を早期に確立させ、専門科目への意欲的な学習への取り組みを促進し、介護技術の定着を図る。 ④ P T Aの定期総会・役員会や学校行事・ボランティア活動への保護者の出席率を高め、P T A活動に対する意識の向上に努める。 ⑤ 学校評議員、同窓会、地域諸団体等との連携を深めることで、地域におけるボランティア活動等に生徒が参加できるような環境づくりに努める。 ⑥ ホームページ等を活用して本校の教育活動を広く紹介する。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度 となみ野高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	基礎学力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 興味、関心にもとづき積極的に科目選択をしている生徒がいる一方で、消極的な意識で科目選択をしている生徒も少なくない。自己実現に向けた科目選択を十分に行っているとはいえない。 進路や単位修得に関して不安を持っているが、日常的な家庭学習や選択した科目に対する授業の取り組み方も積極的とはいえないなど矛盾を抱えている。
達成目標	単位修得率 <hr/> 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、互見授業週間を通して授業や指導法の改善に取り組むとともに、ICT機器の積極的な利用や授業のユニバーサルデザイン化の推進を図る。 授業や年次別学習等において生徒個々の学力の把握に努め、教科担当者等による個別指導の充実を図る。 国数英の「基礎学力コンテスト」を実施し、年次・教科と連携しながら事前・事後の指導に取り組む。 通常の授業及び休業中の課題提出の徹底を図り、家庭学習の習慣化を促す。 学習状況調査や授業に関する生徒の意識調査など各種アンケートを実施し、その分析結果と個人面接とを関連づけて、生徒一人一人の自己実現を支援する。 担任による面接や個別指導を充実させ、生徒の実態把握に努め、学校生活への意欲を促す。 年次、教科、進路指導部と連携し、進路目標に応じた学習への取り組みを促す。 『履修の手引き』の改訂と科目登録ガイダンスの運営を工夫し、多くの生徒が進路目標に応じて、卒業後を見通した主体的な科目選択ができるよう時間割の編成を図る。 長欠者に通信科目の選択を意識させ、学習の機会を確保する。 安易な科目選択をせず、自己実現や学力の向上につながる科目登録ができるよう指導する。

平成30年度 となみ野高等学校アクションプラン -2-			
重点項目	学校生活		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の高揚 基本的な生活リズムを整えることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故が27年度2件、28年度3件、29年度4件発生している。スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒がいる。 1日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムが確立せず、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒がみられる。生活リズムを整えることへの意識は高まっているが、行動に移せない生徒が多い。 		
達成目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 <hr/> ゼロ件 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ② 「生活リズムを整えることができた・改善できた」とする生徒の割合 <hr/> 50%以上 </td> </tr> </table>	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 <hr/> ゼロ件	② 「生活リズムを整えることができた・改善できた」とする生徒の割合 <hr/> 50%以上
① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 <hr/> ゼロ件	② 「生活リズムを整えることができた・改善できた」とする生徒の割合 <hr/> 50%以上		
方 策	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 毎朝登校指導を実施し、登校時や日常生活全般において時間に余裕を持って行動するよう指導する。 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高めるとともに原付自転車通学生に対しても安全教室(実技・講義)を実施し、事故防止の徹底を図る。 全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車・原付自転車の使用を徹底する。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向けアンケートを実施し、生徒の1日の生活リズムの実態を把握し、個人面接等の機会を利用してアドバイスをを行う。 生徒保健委員会による啓発活動を年間を通して計画し、生活リズムを確立することの大切さについて、全校生徒が意識できるように工夫する。 年次と連携し、「心と体のつながり」や「生活リズム」の大切さを意識させる生徒向け研修会を企画・実施する。 学期末にアンケートを実施し、生徒自身の生活リズムについての自己評価を行わせ、健康管理への意識を高める。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝登校指導を実施し、登校時や日常生活全般において時間に余裕を持って行動するよう指導する。 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高めるとともに原付自転車通学生に対しても安全教室(実技・講義)を実施し、事故防止の徹底を図る。 全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車・原付自転車の使用を徹底する。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けアンケートを実施し、生徒の1日の生活リズムの実態を把握し、個人面接等の機会を利用してアドバイスをを行う。 生徒保健委員会による啓発活動を年間を通して計画し、生活リズムを確立することの大切さについて、全校生徒が意識できるように工夫する。 年次と連携し、「心と体のつながり」や「生活リズム」の大切さを意識させる生徒向け研修会を企画・実施する。 学期末にアンケートを実施し、生徒自身の生活リズムについての自己評価を行わせ、健康管理への意識を高める。
<ul style="list-style-type: none"> 毎朝登校指導を実施し、登校時や日常生活全般において時間に余裕を持って行動するよう指導する。 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高めるとともに原付自転車通学生に対しても安全教室(実技・講義)を実施し、事故防止の徹底を図る。 全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車・原付自転車の使用を徹底する。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けアンケートを実施し、生徒の1日の生活リズムの実態を把握し、個人面接等の機会を利用してアドバイスをを行う。 生徒保健委員会による啓発活動を年間を通して計画し、生活リズムを確立することの大切さについて、全校生徒が意識できるように工夫する。 年次と連携し、「心と体のつながり」や「生活リズム」の大切さを意識させる生徒向け研修会を企画・実施する。 学期末にアンケートを実施し、生徒自身の生活リズムについての自己評価を行わせ、健康管理への意識を高める。 		

平成30年度 となみ野高等学校アクションプラン		-3-
重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人の進路目標実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習習慣が定着していないため、基礎学力に欠ける生徒がいる。 ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な進路目標を持ってない生徒がいる。 ・ 自己表現力が乏しく、コミュニケーション能力に欠ける生徒がいる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率	② 1, 2年次の2月の進路希望調査時点で、進学・就職を明確にできる生徒の割合
	100%	1年次75%以上 2年次90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に重点を置き、基礎学力・基本的マナーを身につけさせるとともに、放課後などに個別学習を行い、個々に応じた学力の向上を図る。 ・ 年次別学習において、基礎学力の定着を図るために英数国を中心とした学習を実施し、その確認も含めて基礎学力コンテストを行う。 ・ 職業研究、インターンシップ、進路特別講座(上級学校・職場見学会、先輩講話、進路ガイダンス、社会人講話など)を実施し、進路ノートの活用など事前・事後指導を工夫し進路意識の向上を目指す。 ・ 特別支援が必要と思われる生徒の進路目標実現に向けて、保健厚生部(関係機関、特別支援教育コーディネーターを含む)、保護者との連携を密にする。 ・ 全教員及び生徒指導部との連携を図り、基本的生活習慣の向上が進路目標実現に大きく関わっていることを共通認識しながら生徒への指導にあたる。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員(JST)や管理職を含む校務運営委員と連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論指導を実施し、社会人として必要なマナーや自己表現力を身に付けさせる。 	

平成30年度 となみ野高等学校アクションプラン		-4-
重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事への積極的な参加 ・ 読書習慣の定着 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動や学校行事を苦手とし、行事になると欠席する生徒がいる。 ・ 特定の人は話せるが、大勢でのコミュニケーションを苦手とし、集団活動になじめない生徒もいる。 ・ 昨年度の年間一人あたりの図書貸し出し数が達成目標に近づいたが、入学以来1冊も本を読んでいない生徒もいる。 	
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の出席率 ② 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の充実度	③ 年間の図書を借りる生徒数
	①は90%以上 ②は90%以上	③は全校生徒の50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事を通して、校訓「発見、挑戦、創造」の持つ意味の理解とその実践に努める。 ・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・ 行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。 ・ 話題性の高い作品や生徒の心に響く作品を入れ、それらの案内・掲示などの方法や時期を工夫して紹介するなど、読書に対する意識を高めて図書館の利用度を上げる工夫をする。 ・ 図書委員は積極的に委員会活動を行い、生徒全体に図書館活動への参加を促す。 ・ 個人購入図書や電子書籍、校外図書館等の貸し出し図書も推奨し、アンケートで状況把握を図る。 	

重点項目	その他(総合福祉科学習指導)
重点課題	専門科目への意欲的な学習
現 状	福祉・介護に関する知識・技術の定着に時間がかかる。 実践力・応用力が乏しく、自信のない生徒が多い。
達成目標	介護技術の定着度・できた満足度(生徒の自己評価による) ----- 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。・ 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。・ 関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。・ 配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。・ 授業のユニバーサルデザイン化を進める。